

# まちづくり メールニュース

Vol. 140

(H19.10.1)

北海道開発局都市住宅課  
まちづくり相談窓口

今月の  
話題

- 平成19年度北海道中心市街地活性化フォーラムのご案内
- 施策紹介 ディスポーザーの設置で住みやすい快適な住環境づくりを推進(沼田町)
- 北海道都市問題会議 開催のお知らせ
- コラム マイ箸とまちづくり

## 平成19年度北海道中心市街地活性化フォーラムのご案内 「実践する、成果をあげるまちづくりー北海道の底力を示す時ー」

人口減少と少子高齢化社会が到来する中、多くの方々がコンパクトでにぎわいあふれるまちづくりに関心を持ち、その必要性を感じています。

北海道においても、昨年8月に施行された新中心市街地活性化法に基づく基本計画策定に向けた取組が着実に進展しているところですが、こうした中、まちづくりは、課題発見から課題解決に向けて、具体的に実践し、具体的な成果をあげる局面へと変わりつつあり、北海道の底力を示す時にあります。

本フォーラムでは、北海道におけるまちづくりの実践の加速化を図ることを目的に、各地でまちづくりの先進的な取組をされている方々を交えて、基調講演・パネルディスカッションを行います。

- 日 時：平成19年10月30日（火） 13：30～17：00
- 場 所：ホテル札幌ガーデンパレス2階「丹頂」（札幌市中央区北1条西6丁目 TEL：011-261-5311）
- 主 催：経済産業省北海道経済産業局
- 定 員：200名（参加費無料）
- プログラム

### 基 調 講 演

「まちづくりに求められる地域の底力」（石原 武政氏／関西学院大学 商学部 教授）

### パネルディスカッション

「まちづくり どのように実践するか、どのような成果を目指すか」

【パネリスト】石原 武政氏（関西学院大学 商学部 教授）／久慈 正俊氏（久慈市産業振興部 中心市街地活性化推進室長）／山口 乃子氏（Aizu Anessa Club 初代&現代表）／大下 茂氏（水郷三都観光推進協議会（佐原・潮来・鹿嶋）の観光アドバイザー）／近澤 弘明氏（横濱まちづくり倶楽部 副会長）／田伏 清巳氏（砂川市経済部 商工労働観光課長）

【コーディネーター】村橋 保春（株式会社NTTデータ経営研究所 アソシエイトパートナー）

### 申込み・問い合わせ先（事務局）

株式会社 NTTデータ経営研究所（担当：今村）

TEL：03-5467-6729（ダイヤルイン＝平日10：00～17：00）／ FAX：03-5467-6332

URL：<http://www.keieiken.co.jp/events/2007/1030/index.html>

参加申込書に必要事項をご記入のうえ、FAXにて10月24日（水）までにお申し込み下さい。  
（参加申込書は事務局及び北海道経済産業局のウェブサイトからダウンロードできます。）

### 本事業に関する問い合わせ先

経済産業省北海道経済産業局産業部商業振興室

TEL：011-738-3236（直通）

URL：[http://www.hkd.meti.go.jp/hokib/h19hok\\_forum/index.htm](http://www.hkd.meti.go.jp/hokib/h19hok_forum/index.htm)

## 【施策紹介】

## ディスポーザーの設置で住みやすい快適な住環境づくりを推進

(ディスポーザー設置推進事業／沼田町地域開発課)

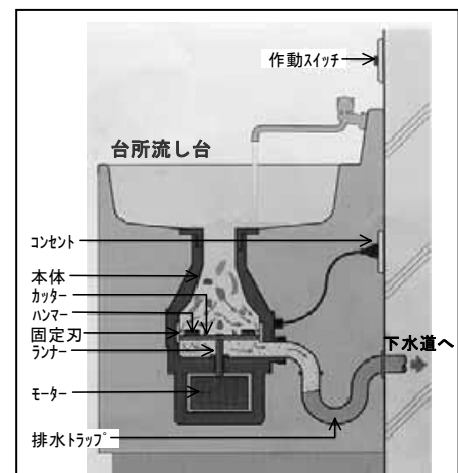
## 【はじめに】

沼田町は農業を基幹産業とする人口約4,000人ほどの小さな町です。南部の平坦部は、広大な石狩平野の北部に位置する肥沃な水田地帯で、北部に広がる緑ゆたかな森、やすらぎを与えてくれるホロピリ湖（沼田ダム）などの自然環境に恵まれており、ほろしん温泉やほたるの里、夜高あんどん祭り、化石や明日萌の里など、都市にはない特徴のある素材を豊富に有しております。また、豪雪地帯である本町は、雪冷熱エネルギーの利用先進地としても知られており、夏場における米の貯蔵や居住空間の冷房などに雪冷熱を積極的に活用し、平成14年6月には「輝け雪のまち宣言」を行うなど、雪との共存・共生を目指した取り組みを進めています。この地球環境にやさしい雪氷冷熱エネルギーの活用は環境問題へも貢献するものです。

## 【ディスポーザーについて】

ディスポーザー（生ゴミ粉碎機）は、台所の流し台の下部に排水管と一体化して取り付け、生ゴミを粉碎して水と一緒に排水管に流す家電機械です。ディスポーザーを利用することにより、調理後の野菜くずや残飯などを速やかに排出することができるので、台所を衛生的に保つことができ、また家庭から収集ゴミとして出していた生ゴミの量を減らすことができます。一方、粉碎された生ゴミは下水道施設に流すことによって環境への影響が心配されますが、下水処理場で適正に処理すれば、川や海への影響は少なく、放流水質の排水基準を十分守ることができます。

町では、設置により下記のようなメリットがあることから、ディスポーザー設置にかかる助成制度を全国で初めて設けました。



## (参考)ディスポーザー設置の利点と欠点

利 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ゴミを出した時のカラス等の被害が少なくなり、良好な衛生環境が保たれる。</li> <li>・台所が衛生的になり、またゴミ捨て労力が少なくなる。</li> <li>・有料ゴミ袋の購入費用が少なくなる。</li> <li>・生ゴミの減量化が図られる。</li> <li>・行政コスト面では、生ゴミの減量化によるゴミ収集コスト及びゴミ処理コストの減が図られるとともに、設置による上下水道料金の収入増につながる。</li> <li>・その他にも、町内取扱業者の収入増につながる。</li> </ul>
欠 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運転中に台所で騒音や振動が発生する。</li> <li>・排水管等の詰まりや故障が発生する恐れがある。</li> <li>・運転にかかる電気料金、上下水道料金が増加する。</li> </ul>

## 【当町でのディスポーザー設置推進事業】

平成19年度から平成21年度までの間に、沼田町内の排水設備工事指定業者から新規にディスポーザーを購入して設置した方に、25,000円の助成を行うものです。町では、3年間で500戸（普及率40%）の設置を目指しています。現在、生ごみは北空知衛生センターで処理されていますが、計画通り設置が進むと年間55tの生ごみが減量化され、行政コストも年4,800千円減額出来ると試算しています。

また、ディスポーザーの設置推進により現状の沼田浄化センターにおいて特に施設の増強や改造の必要はなく、また、河川へ放流している処理水についても水質基準を遵守できることから、様々な効果と影響を総合的に検討し、設置を推進することとしたものです。

なお、沼田浄化センターで処理された生ごみは、下水道汚泥とともに、沼田下水汚泥堆肥盤で堆肥化され、緑農地還元されて農業者に有効利用されています。

## 【沼田町の美しい環境づくりへの取り組み】

本町では、「ほたるの里・雪輝く町」沼田町にふさわしい地域環境の美化と資源の有効利用を図るため、「沼田町美しき環境づくり条例」を平成14年に制定し、住民の環境に配慮した自発的活動を促すとともに、環境と調和した美しいまちづくりを目指しています。また、今までできなかった自然の雪を利用した冷熱エネルギーを活用するための利雪技術の開発にも取り組んでおり、雪はクリーンで地球環境にやさしく、地球温暖化などの環境問題への貢献も期待されており、農産物貯蔵への実用化も進めています。

今後は、沼田町の豊かな自然を象徴している「ほたる」の生息環境を守り、雪冷熱エネルギーの利活用を更に進め、二酸化炭素の削減や引いては地球温暖化をはじめとする環境問題へ貢献し、このディスポーザー設置推進事業とあわせ、地球規模の環境対策への貢献と、次世代へ豊かな自然環境を残し「住民が住んでよかった」と実感できる住みやすい快適な住環境の推進と夜高あんどん祭りに象徴される元気で活力あるまちづくりを進めていきます。



ほたる



夜高あんどん祭り（ぶつけあい風景）

スノークールライスファクトリー  
(米貯蔵に雪を活用した施設)

# 北海道都市問題会議 開催のお知らせ

近年の地方分権・市町村合併・道州制への流れは「市町村」に自治能力の強化を促していますが、その一方で、合併による広域化と人口減少・高齢化の進行が、地方自治の基盤である地域コミュニティに対する意識や活力を低下させつつあります。

こうした中で、「地域力」向上への取組みが求められていることを踏まえて、「地域主権時代における市民主体のまちづくり」をテーマとして、岩見沢市で第31回会議を開催いたします。

1. 主催 北海道都市地域学会、北海道市長会、岩見沢市（開催市）
2. 後援 (財)北海道市町村振興協会
3. 開催日 平成19年10月25日（木）～26日（金）
4. 会場 岩見沢平安閣（岩見沢市5条東2丁目）
5. 対象者 市町村長、市町村議会議員、地域住民、大学関係者、自治体職員など
6. 参加費用 無料（ただし、交流会は会費2,000円）
7. プログラム

## ○10月25日（1日目）

北海道都市問題会議（12:30～17:40）

- ・基調講演：「わが国のまちづくりの進むべき方向」  
（黒川 洸 社会資本整備審議会都市計画・歴史的風土分科会会長）
- ・第一セッション：「地域資源の蓄積と活用によるコミュニティ自治力の強化策を考える」  
（コーディネーター：佐藤 克廣：北海学園大学法学部教授）
- ・第二セッション：「新たな担い手によるまちづくりの推進と連携強化方策を考える」  
（コーディネーター：田村 亨／室蘭工業大学建設システム工学科教授）

交流会（17:45～19:00）

## ○10月26日（2日目）

市内施設見学（9:30～11:30）

北海道都市地域学会セミナー（13:00～15:15）

- ・第一講義：「災害図上訓練（DIG）を用いたまち育て人育て」  
（佐々木 貴子：北海道教育大学教育学部札幌校准教授）
- ・第二講義：「中心市街地活性化の隘路」  
（千葉 博正：札幌大学経営学部教授）

※希望者には北海道都市地域学会がCPD証明書(\*)を発行します

(\*) CPD: Continuing Professional Development (継続的専門能力開発=継続教育)

### 【問い合わせ先】

第31回北海道都市問題会議実行委員会事務局  
〒068-8686 岩見沢市鳩が丘1丁目1-1  
岩見沢市企画財政部企画室 担当：川原、二木  
Tel:0126-23-4111(内423) Fax:0126-23-9977  
E-mail:kikaku@i-hamanasu.jp

## マイ箸とまちづくり

来年サミットが北海道で開催されます。環境問題が主要なテーマになるとのことですが、地球温暖化の危機が叫ばれているなか、対策はさらに加速して講じなければいけない状況です。皆さんは、何か心がけていらっしゃるでしょうか？今の便利で快適な生活を犠牲にしてまで実行するのはなかなか難しいところもありますが、意識を持つことだけでもちょっとした行動に現れるのではないのでしょうか。

最近、マイ箸についてのニュースを見聞きしました。大手居酒屋チェーンの中には、使い捨ての箸を止めたところがあるといいますし、マイ箸持参の方には特典のあるお店やボトルならぬマイ箸キープをしてくれるお店もあるようです。そういえば最近、瀬戸物屋さんなどの店頭には箸袋(ケース)と一緒に個性ある(日常他人の目に触れることがないものだけにこだわる?)箸が沢山並んでいるのを目にします。かく言う私も、時流に乗り遅れる？

ことなく、マイ箸なるものを調達しました。ただし、使うのは昼食ぐらいで、夜の夕食(居酒屋?)で使うのは、いつもの酩酊状態に陥るのを思うと紛失の恐れが多分にあり、翌朝の慚愧の思いが二重になると思うと、もう少しマイ箸がマイ習慣になるまでと躊躇っています。そう安くはないマイ箸を頻繁に調達すると、未だかつて唯一温暖化していない懐が一気に寒冷化してしまいそうです。

箸の話が出たところで、食べ物のお話を。フードマイレージという概念があるそうです。食べ物の重量×距離で表されるもので、マイレージが少ない＝基本的に生産地と消費地が近いことがエネルギー効率の点から望ましいということらしいです。最初、食料品にマイレージクーポンがつくの?などと思い調べてみました。この概念では、今の日本人は、歴史上未だかつてないほど贅沢な食生活をしており、総量では群を抜いて世界でトップだそうで、国民一人あたりでも一位だそうです。食糧自給率が低いのもあるそうですが、明治以降、世界の食文化を巧みに取り入れてきた日本ならではの結果でもあるとも言われています。最近よく耳にする地産地消もこの反省があるのでしょうか。そこで、地産地消も調べてみました。そもそもの意味は栄養バランスの悪い日本人の食生活改善のため、その昔は高価であるため摂取が困難であった西洋の食材を、地元で安価に生産し日常の食生活に取り入れ、疾病予防を行い医療費を削減しようということだったそうです。とはいっても、適地適作を無視して、過剰なエネルギーと労力をかけてまで地産地消にこだわる必要はないのではという意見もあります。

などといいながらも、今年も山川へ魚を求めて地産地(自)食へとエネルギーと労力をかけ出かけたのではあります。裸眼では仕掛けを作るのにすっかり時間がかかるようになり、川の中でじっとしていると蚊の絶好の餌食となってしまうので、事前に作るようになってしまいました。でも、釣り場に思いを馳せながら、竿先のさらに糸先の仕掛けに挑んでくる魚のことを考えているとなかなか楽しくもあるものです。

まちづくりの仕掛けも、遠い先の将来の街の姿に思いを込め、今手元にある制度という材料を使って上手に作れば、すばらしい街という大きな釣果が期待できるのではないのでしょうか。

T. Y



手前の2本を継いで使います